

私は楽しい中学校生活を送りたい!

岐阜市立厚見中学校 3年
恒川心葉(つねかわ こは)

令和2年6月1日コロナ禍での入学式。やっと私たちの中学校生活が始まった。行事の縮小、学校生活の制限が余儀なくされたが、そんな中でも、いえそんな中だからこそ「楽しく学校生活を送りたい」という強い思いがあった。それでも最初の一年は慣れないことも多く、あっという間に過ぎていってしまった。

2年生の前期、私は小学校の頃から興味があった生徒会活動に参加したいと思い、書記に立候補して当選することができた。やりたいことはたくさんあったが、初めての生徒会では先輩の後を付いて行動するのがやっとだった。しかし、活動の中でみんなの笑顔が見られたり、学校生活の向上のために動いていると実感できたりすることで大きなやりがいを感じることもできた。そして2年生の後期には生徒会長としてさらに学校に貢献したいと考えた。私たちの学校では「温言活動」を大切にしている。「温言」は仲間の温かい言葉や行動を見つけ、それをクラスや学年、全校と広げていく活動だ。これは小学校での「かがやきき見つけ」から繋がっている。私自身、自分のクラスで「掃除の時に毎回バケツの準備や後片付けをしてくれているので嬉しい」という内容の温言を見た時、その人がそんなふうに班に貢献していることを初めて知り、その人に対する見方が変わったことがある。人には色々なよさがあり、自分が普段見ているのは、その人の一面に過ぎないと認識した上で人と接することが大切だと思った。だから、全校生徒がこの活動を通して、お互いを多面的に見ることで、もっともっと新たな仲間の良さの発見や自分の良さの発見につながるのではないかと考え、活動に力を入れた。

生徒会活動の中でもう一つ私の目を見開かせてくれたのは「生徒会サミット」に参加したことだ。市内の中学校から集まった生徒会メンバーと活動の交流をした。「厚見中でやっていること自分の学校でもぜひ取り入れたい」という他校生徒の言葉に、厚見中の生徒会活動が認めてもらえたようで嬉しかった。また、自分たちの学校をよりよくしたいという同じ思いで活動している人が他にもたくさんいると分かって、とても心強いと感じた。岐阜市の中学校がつながり、一つになれたように思えた。この生徒会サミットは、私にとって視野が広がり考えを深めるきっかけとなったこの上なく楽しい時間だった。

今、ウクライナで戦争が起きている。ニュースでこのことを扱わない日はない。ロシア軍の一方的な軍事侵攻がきっかけで起きた戦争だ。以前の私だったら、尊い命が奪われることに対する悲しみはもちろん、ロシアに対する怒りを覚えていただろう。ロシア人を悪と決めつけ、批判を続けていただろう。しかし、今の私は「本当にそうだろうか?」と考えてみる。ロシア人の中にも戦争に反対している人、ウクライナ人が亡くなる姿に心を痛めている人、思うだけでなく実際に何らかの行動をしている人も多くいるに違いない。事実を丁寧に見ようとせず、勝手な思い込みからロシア人という括りで彼らを無責任に批判することこそが悪なのではないだろうか。

どんなことにも様々な側面がある。学校の温言活動を通して、一人一人の言動にも様々な思いやその人のよさがあることを知った。また、全校でその活動を大切に発展させていくことを通して、お互いを思い支え合える優しくあったかな仲間関係ができてきた。生徒会サミットを通して、普段は見ることのできない他の学校での活動やみんなの思いを知りエネルギーをもらった。世界の中では、毎日様々なことが起きている。事実の一部分だけにスポットが当たっていることも少なくない。だからといって、いきなり社会情勢全てに目を向け自分事として捉えることは難しい。だからこそ私はまず自分の身の回りにしっかり目を向け、一人一人の仲間の良さに気付ける感覚を磨きたい。様々な出来事を多面的に捉え、深く考え行動する力を磨きたい。私たちは今、学校という一つの社会をどう創っていくかを学び、考え、実行している。どの学校にも、そういった仲間がたくさんいる。いつか私たちが本物の社会を創る立場になった時、より良い社会を創るために頑張れる気がする。

コロナ禍でスタートした中学校生活。私は今、仲間の思いを知り、その良さに気付き、仲間と共に活動できる楽しさを、さらには物事を多面的に眺め深く考えることの楽しさを存分に味わっている。